

作成日 2015年 9月 1日  
改訂日 2023年 1月 10日

## 安全データシート（混合物用）

### 1. 製品および会社情報

製品名 塗り床汚れイッキ落ち  
会社名 ヤブ原産業株式会社  
住所 〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷546  
担当部署 販売営業部  
作成者 技術部  
電話番号 048-297-4111  
FAX番号 048-290-1198  
緊急連絡先 048-297-4111  
推奨用途及び使用上の制限 塗り床材、ビニルタイル、ビニルシートの表面洗浄  
整理番号 152008

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

健康に対する有害性 皮膚腐食性/刺激性 区分2  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分1  
皮膚感作性 区分1  
特定標的臓器/全身毒性（単回ばく露） 区分2（中枢神経系、呼吸器系、肝臓）  
特定標的臓器/全身毒性（反復ばく露） 区分2（中枢神経系、呼吸器系、肝臓）

環境に対する有害性 水生環境有害性（急性） 区分2  
水生環境有害性（慢性） 分類できない

※上記以外は区分に該当しないか分類できない

#### ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語 危険  
危険有害性情報 皮膚刺激  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
重篤な眼の損傷  
臓器の障害（中枢神経系、呼吸器系、肝臓）のおそれ  
長期にわたる又は反復暴露による臓器の障害のおそれ（中枢神経系、呼吸器系、肝臓）  
水生生物に毒性

#### 注意書

##### 【安全対策】

適切な保護手袋／保護眼鏡／保護マスク／保護面／保護衣を着用すること。  
容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。  
ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
取扱い後はよく眼を洗うこと。  
屋外または換気の良い場所でだけ使用すること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

環境への放出を避けること。

【応急処置】

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸に関する症状が出た場合、医師に連絡すること。

気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。

皮膚または髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診察/手当を受けること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

直ちに医師に連絡すること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

漏出物を回収すること。

【保管】

涼しいところ/換気の良い場所で、施錠して保管すること。容器を密閉しておくこと。

【廃棄】

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

その他の情報 : 眼に対して刺激性があり、長時間皮膚に接触すると、肌荒れを起こすことがある。

### 3. 組成、成分情報

化学物質、混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲 (%)	CAS No.	備考
界面活性剤（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩）	5.2	25155-30-0	PRTR第1種
ココアンホプロピオン酸Na	1~5	91053-17-7	
ジエチレングリコールモノブチルエーテル	7.0	112-34-5	安衛法・PRTR第1種
2-アミノエタノール	1.5	141-43-5	安衛法・PRTR第1種
ピロリン酸カリウム	5~10	7320-34-5	
水軟化剤、色素他			

※ 代表値であり、規格値ではありません。

### 4. 応急措置

吸入した場合 : 蒸気、ガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。症状が改善しない場合は、医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合 : 付着物を布にて素早く拭き取ること。  
直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。  
大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とすこと。  
外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診察を受けること。

眼に入った場合 : 清浄な水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる

場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

まぶたの裏まで完全に洗うこと。

直ちに医師に連絡すること。

- 飲み込んだ場合 : 誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- 嘔吐物は飲み込ませないこと。
- 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
- ※ 嘔吐物や泡が気管に入ると肺炎を起こす可能性があるため、無理に吐かせない。
- また、自然に嘔吐が生じた場合は、嘔吐物を吸入しないように注意する。嘔吐や下痢症状が激しい場合、様子がおかしい場合は医師に連絡する。

## 5. 火災時の措置

本製品は不燃性であるが、加熱した場合、着火源があると燃える可能性がある。

適切な消火剤 : 水、粉末、泡、炭酸ガス

初期の火災 : 水、粉末、泡、炭酸ガスの消火剤を用いる。

大規模火災 : 大型泡沫消火器が有効である。

使ってはならない消火剤 : 情報なし

特有の消火方法 : 安全に対処できるのであれば可燃性のものを周囲から素早く取り除くこと。

火災発生場所の周辺は関係者以外の立ち入りを禁止する。

火元への燃焼源を断ち、指定の消火剤を使用すること。

高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却すること。

消火活動は風上より行うこと。

消火を行う者の保護 : 適切な保護具（耐熱性着衣、空気呼吸器等）を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用すること。

屋内では換気をしっかり行うこと。

屋外の場合には、できるだけ風上から作業を行うこと。

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止すること。

環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込めおよび浄化の方法・機材 : 漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移すこと。

付着物、廃棄物等は、関係法規にもとづいて処置すること。

少量の場合は、布巾、ウエス等にて拭き取る。

大量に流出した場合は、盛土などで流出を防ぐこと。スコップ、ウエス等で回収して、適切な

容器に入れること。

水での洗浄なども、河川等への流出、環境汚染を引き起こす恐れもあり注意すること。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、眼に入らないよう保護具を着用すること。

取り扱い後は手・顔等をよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。  
詰め替え作業は皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、眼に入らないよう保護具を着用すること。容器が破損しないように、乱暴な取り扱いを避けること。  
容器はその都度密栓すること。

- 注意事項 : 容器は手荒な扱いをせず、内容物の漏洩を防止する。
- 保管
- 技術的対策および保管条件 : 日光の直射を避け、40℃以下で保管すること。  
通風のよいところに保管すること。  
漏れ、あふれ、飛散しないよう必要な措置を講ずること。  
冷暗所、乾燥した場所に保管する。  
盗難防止のために施錠保管する。子供の手の届かないところに保管すること。
- 注意事項 : 転倒、転落しないように注意する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度 : 設定されていない
- 設備対策 : 取り扱い場所の近くに洗眼、手洗い、洗顔設備を設置することが望ましい。  
適切な換気のある場所で取り扱う。

### 保護具

- 呼吸器用の保護具 : 作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用すること。
- 手の保護具 : 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋（ゴム製）を着用する。
- 眼の保護具 : 取扱いにはゴーグル型保護メガネを着用すること。必要に応じて顔面シールドを着用すること。
- 皮膚および身体の保護具 : 取扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。  
また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

## 9. 物理的および化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 色 : 緑色透明
- 臭い : ややあり
- 融点/凝固点 : データなし
- 沸点又は初留点及び沸点範囲 : データなし
- 可燃性 : データなし
- 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 : データなし
- 引火点 : 引火しない
- 自然発火点 : 発火しない
- 分解温度 : データなし
- PH : 11.0～14.0（25℃）
- 動粘性率 : データなし
- 溶解度 : 水に易溶
- n-オクタノール/水分 : データなし
- 配係数 : データなし
- 蒸気圧 : データなし

密度及び/又は相対密度 : 1.04~1.10 (25℃)  
相対ガス密度 : データなし  
粒子特性 : データなし

## 10. 安定性および反応性

化学的安定性 : 通常の条件では、光、熱、衝撃に対して安定。  
反応性  
危険有害反応可能性 : 消防法に該当しないが、加熱などにより着火源があると燃える可能性がある。  
避けるべき条件 : 情報なし  
混触危険物質 : 情報なし  
危険有害な分解生成物 : 情報なし

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

経口 : 分類できない  
経皮 : 分類できない  
吸入(気体) : 分類できない  
吸入(蒸気) : 分類できない  
吸入(粉塵・ミスト) : 分類できない

皮膚腐食性・刺激性 : ドデシルベンゼンスルホン酸塩(区分2)、2-アミノエタノール(区分1A)

眼に対する重篤な損傷・刺激性 : ジエチレングリコールモノブチルエーテル(区分2A)、ドデシルベンゼンスルホン酸塩(区分2A)、2-アミノエタノール(区分1)

呼吸器感作性または皮膚感作性 : 呼吸器 分類できない  
皮膚 2-アミノエタノール(区分1)

生殖細胞変異原性 : 分類できない

発がん性 : 分類できない

生殖毒性 : 分類できない

授乳に対するまたは授乳を介した影響の追加区分 : 分類できない

特定標的臓器・全身毒性-単回ばく露 : 2-アミノエタノール(区分1中枢神経系、呼吸器系、肝臓、区分3麻酔作用)、ジエチレングリコールモノブチルエーテル(区分3麻酔作用)、ドデシルベンゼンスルホン酸塩(区分3気道刺激性)

特定標的臓器・全身毒性-反復ばく露 : 2-アミノエタノール(区分1中枢神経系、区分2呼吸器系)、ジエチレングリコールモノブチルエーテル(区分1呼吸器系、肝臓)

誤えん有毒性 : 分類できない

## 12. 環境影響情報

生体毒性 : 情報なし  
残留性・分解性 : 情報なし  
生態蓄積性 : 情報なし  
土壤中の移動性 : 情報なし

## 水性環境有害性

短期(急性) : ドデシルベンゼンスルホン酸塩 (区分1)、2-アミノエタノール (区分2)

長期(慢性) : 分類できない

オゾン層への有害性 : 分類できない

・漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。

・特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。  
廃薬品、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をすること。  
排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、廃棄物の処理および清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託をすること。

汚染容器および包装 : 空容器は内容物を完全に除去してから処分すること。  
許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

## 14. 輸送上の注意

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 : 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。  
容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積込む。また、輸送中に互いに衝突して破損することがないように予め適当な緩衝材を詰める等の処理をし、荷崩れ防止を確実にすること。

### 国内規定

国連番号 : 非該当

品名 : 非該当

陸上輸送 : 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。

海上輸送 : 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空輸送 : 航空法に定めるところに従うこと。

## 15. 適用法令

消防法 : 非該当

労働安全衛生法 : 名称を表示すべき危険物及び有害物 (法57条第1項)  
ジエチレングリコールモノブチルエーテル、2-アミノエタノール  
名称を通知すべき危険物及び有害物 (法57条の2)  
ジエチレングリコールモノブチルエーテル、2-アミノエタノール

毒物及び劇物取締法 : 非該当

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) : ジエチレングリコールモノブチルエーテル、2-アミノエタノール、  
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

船舶安全法 : 非該当

水質汚濁防止法 : 施行令 (排出基準) BOD、COD

## 16. その他の情報

### 参考文献

- ・GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物（塗料用）〕（日本塗料工業会）
- ・SDS用物質データベース（日本塗料工業会）
- ・溶剤便覧
- ・製品評価技術基盤機構（NITE）
- ・国際化学物質安全カード（ICSC）
- ・原料メーカーSDS

### 注意

本データシートは、作成または改訂時において、製品およびその組成に関する最新の情報（危険有害性情報・取扱い情報など）を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には、追加・修正を行ない改訂いたします。

また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。

本製品を当社が認めた材料以外のもとの混合、当社が認めた仕様以外の特異な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行ってください。